

太宰府の文化財

446

装飾が施された土器 (川添遺跡第3次調査 国分三丁目地内)

発掘調査では、過去の生活の跡からたくさん出土します。その多くは似たり寄ったりのもので多いのですが、稀に少し変わった装飾をもつ土器が見つかることがあります。そんな変わった土器が、昨年8月から12月にかけて行行った川添遺跡

第3次調査で見つかりました。今回はこの土器について紹介します。

発掘調査では、過去の生活の跡からたくさん出土します。その多くは似たり寄ったりのもので多いのですが、稀に少し変わった装飾をもつ土器が見つかることがあります。そんな変わった土器が、昨年8月から12月にかけて行行った川添遺跡

第3次調査で見つかりました。今回はこの土器について紹介します。見つかった土器は須恵器という硬い焼き物でハソウ(甗)という器種です。ハソウは土器の中央に穴(注口)が開いており、ここから筒状の道具を差し込み、土器の中に入れられた液体を注いだものと考えられています。



川添遺跡第3次調査出土土器(本市出土)



塚堂遺跡出土土器(うきは市出土)

す。破片からなぜわかるかと言うと、この土器を観察すると割れた断面の一部に丸く削られた部分が見えます。割れる前から手が加えられたもので、この痕跡から注口であることがわかります。この特徴と土器の曲がり具合や傾きからハソウであることがわかるのです。

土器の表面に見える文様を見てください。穴があげられた横には何本もの線が波打って見られます。これは波状文と言って、多くのハソウにみられる文様です。ここで注目したいのが丸い文様です。穴の右上に

一つ、左上にも欠けていますが、同じ文様があることがわかります。直径およそ9mmの輪が、2mmほど押し込められています。これは竹管文という文様で、その名の通り竹のような管状の道具を押し当ててできるものです。この文様はハソウではあまり見かけられません。

この竹管文を施したハソウと同じ例はあるのか探してみると、福岡県うきは市(旧浮羽郡吉

井町)の塚堂遺跡で出土していることがわかりました。今のところ類例はこの1点のみのため、九州ではかなり珍しい土器であることが言えます。こちらは完形品で土器の形や文様の配置がよくわかります。川添遺跡3次調査出土の土器と比べて、竹管文の数や大きさは異なりますが、よく似た文様の配置になっています。

塚堂遺跡出土の土器は住居跡から見つかっており、時代については5世紀代に製作されたものと考えられています。川添遺跡第3次調査で見つかった土器については詳細な時期を特定することは難しいですが、その形から塚堂遺跡よりは年代が下ると考えられます。類例が少ないことから、当ても貴重な土器であったかも知れません。

このように、よく見る土器でも少し変わった土器や珍しい土器が発掘調査では見つかることがあります。そのたびに新たな発見・驚きがあります。

文化財課 中村 茂央

編集/太宰府市総務部経営企画課: 7818-0198
092(921)2121 FAX(921)1601

太宰府市観世音寺一丁目1番1号
keiei-kikaku@city.dazaifu.lg.jp

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

太宰府市公式SNSの
フォローをお願いします!

